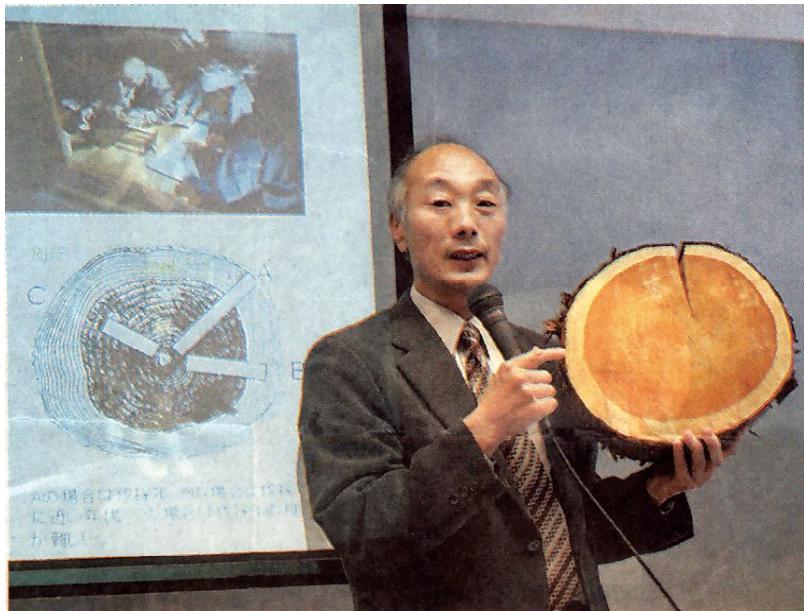


歴史口マン誘う



材木の輪切りを手に年輪年代測定について説明する奈良文化財研究所の光谷拓実・古環境研究室長=宇治市源氏物語ミュージアムで



「現存最古の神社建築」が証明された宇治上神社本殿=宇治市宇治山田で

「現存最古」最新技術で証明
宇治上神社

「現存最古の神社建築」が、最新技術によつて証明された。奈良文化財研究所の年輪年代測定によつて本殿は1060(康平3)年ごろの建築で、現存最古とわかつた宇治市宇治山田にあつ国宝の宇治上神社。1052(永承7)年の平等院創建と同時期であることから、同神社は平等院と同じ藤原頼通によつて建てられたとの見方が強まり、地元関係者は歴史のロマンに思いをはせた。

宇治川に宗教的空间?
調査担当者 平等院と関連推察

調査に携わった同市歴史資料館主任の杉本宏さんは「宇治川をはさんで西に平等院、東に宇治上神社が向かい合っている。西が極楽浄土、東が神の世界」として、宇治川の中州にある「塔の島」付近を中心に半径約1キロに及ぶ一帯に頼通が考えた宗教的空间が広がったとした。

園亮太郎さんは「宇治上神社が世界遺産に登録された以後、毎年6月1日に献茶祭が営まれ、訪れる参拝者も増えてきていた。これまで平等院と宇治上神社は点と点だったが、今回の調査結果で線で結ばれるようになつた。宇治の観光により広がりができる」と喜ぶ。

久保田勇市長は「藤原頼通が宇治で過ごした時代背景とともに宇治の重要性がうかがえる。この文化遺産を後世に伝えるべく、一層の文化財保護に努めていきたい」と話した。